

誰もが幸せな世の中へ

岐阜市立長森南中学校 3年

中野 晶桜

2019年7月3日、岐阜市の中学3年生の男子が、いじめによって、自死したということがありました。そこから、岐阜市では、いじめへの対策が強化されていきました。私の学校では、年に数回、いじめアンケートが実施されます。そして、アンケートが配られた日に必ず放送が流れます。その放送内容は、「このアンケートは、いじめを防いでいくために実施するものです。あなた達の心や体を守ります。」といったものです。この放送を聞いて、正直私は、アンケートなんかでいじめの防止に繋がるのかなと、疑問に思っていました。ですが、アンケート実施後の放送で、こんなことを知りました。「アンケートによって分かったことを、先生一同、解決に向かって動いています。」ということです。私は自分が軽い気持ちで書いているアンケートでも、他の人にとっては、自分の気持ちを相談できるところとなっているんだと思いました。そして、私の学校でも、いじめが起こっていることに衝撃を受けました。いじめは、あってはならないことであり、相手を嫌な気持ちにさせる、意味のないことだと思います。

そんないじめをなくしていくために、私は、中学1年生の前期から、いじめゼロチームという、いじめを未然に防ぐための活動をするチームに入っています。そのチームでは主に、朝の挨拶や昼の校内巡回、いじめ防止のポスター制作などの活動をします。私は、朝の挨拶、昼の校内巡回を担当しています。挨拶をすることが、いじめと関係あるのかと思うかもしれませんが。私は、挨拶をすることで、相手の気持ちを知ることができると考えています。細かいところまでは分からないけれど、その子の気持ちが沈んでいるのか、生き生きとしているのか、きっとそれが、挨拶の声色や、態度として現れるのだと思います。私はこのように、相手の気持ちを理解できること、そして何より、いじめを未然に防いでいく活動に、参加できていることを嬉しく思っています。自分自身、いじめを受けたことがないので、気持ちを全て理解するということではできません。ですが、話を聞くことはできるし、チームに入って、いじめをなくしていくことはできます。これらの経験から、いじめを未然に防いでいくために、クラス内で一人を作らない、そのために、自ら仲間と関わっていくことを大切にしていきたいと思っています。いじめというのは、起きてからではもう遅いのです。自分はやられたくないから、何もしないという人が多くなり、誰も指摘をしないからいじめがヒートアップする。きっと、いじめはこうやってひどくなっていくのだと思います。だから、未然に防ぐということが大切だと考えました。また、相手の立場になって考えること、他人事として考えないことも大切になってくると思います。

少し話が変わりますが、私は修学旅行で広島へ行きました。広島での平和学習では、原子爆弾によって、当たり前だった日常が一瞬にして壊れてしまった辛さを知りました。この学習で、私の中で印象に残った一言があります。それは、「原爆が落とされたという出来事を、他人事のように考えてはいませんか。」という一言です。私はこう問われてから、戦争中の人々や、原子爆弾によって人々に起きたことを自分に置き換えて考えるようになりました。学校では、勉強もできず訓練や仕事ばかり、広島市外へ疎開をしていた子は家族を全員失ってしまう。そんな生活私なら耐えられないと思いました。いじめだってその子の立場になって考えれば、少しかもしれないけれど、きっと辛さが分かるはずです。「自分がされて嫌なことは、相手にしない。」当たり前のことですよね。みんながそうやって考えていけば、いじめはなくなっていくのではないかと思います。私にできることは少ないかもしれないけれど、誰も嫌な思いをしない、そんな世の中にするために、相手の気持ちを理解し、相手の立場になって考えることが大切だということを多くの人に伝えていきます。